

マイボーム腺機能不全 A to Zー明日から使える基本から
最先端までー

Meibomian gland dysfunction A to Z

有田 玲子¹⁾²⁾、福岡 詩麻²⁾³⁾、川島 素子²⁾⁴⁾、白川 理香²⁾³⁾、高 静花²⁾⁵⁾、溝口 尚則²⁾⁶⁾

Reiko Arita¹⁾²⁾

伊藤医院¹⁾、LIME 研究会²⁾、東京大³⁾、慶應大⁴⁾、大阪大⁵⁾、溝口眼科⁶⁾

Itoh Clinic¹⁾、Lid and meibomian gland working group²⁾、Tokyo Univ.³⁾、Keio Univ.⁴⁾、Osaka Univ.⁵⁾、Mizoguchi Eye Clinic⁶⁾

Lid and Meibomian Gland Working Group（LIME 研究会）は 2012 年に発足し、マイボーム腺関連疾患、特にマイボーム腺機能不全（以下 MGD）の重要性の啓蒙を目的として現在まで活動を続けてきた。2013 年に最初のインストラクションコースを行ったとき、“MGD の患者数は多いが、特効薬のない疾患”とご紹介していた。その後、ドライアイの主因（ドライアイ全体の約 86%）として国際的に注目度が高まり、多くの基礎研究、臨床研究が進み、エビデンスのある治療法が次々と開発されてきた。今回のコースでは、MGD の診断と治療の基礎から最先端まで（A to Z）エビデンスをベースに、実際の症例を提示しながらわかりやすく解説する。具体的には、

1．MGD の診断のコツ

スリットランプによる眼瞼縁観察・マイボーム腺脂の質と量の観察

マイボグラフィーによる形態観察

インターフェロメトリーによる油層の質・量の評価

2．MGD の治療戦略

マイボケア（温電法、眼瞼清拭）

マイボーム腺脂の圧出

点眼薬、内服薬、患者さんへお勧めする食事やサプリメント

最先端の治療機器（Thermal pulsation system、Intense Pulsed Light）

を予定している。本コースの目標は、“治療法のある疾患・MGD”を的確に診断し、重症度や患者の要望に合わせて治療法を選択、提案できるようにすることである。まさに MGD, A to Z である。

[利益相反 公表基準：該当] 有

[倫理審査：承認] 有

[動物実験：該当] 無

[IC：取得] 有